

令和2年度 施策評価シート

1. ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 における位置づけ

施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～			
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー			
重点プロジェクト					
主管課	教育部 社会教育課			評価責任者	皆川 恒晴
				評価日	令和3年6月2日
関連課	学校教育課				
目標	地域の歴史・文化に多くの市民が興味や関心を持ち、歴史文化の継承がされるよう文化振興と文化財の有効活用を図ります。				
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 文化資源の保護と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民の歴史や文化に対する意識の高揚を図るとともに、市民や関連団体との協働により更なる歴史文化の継承と文化活動を推進します。 ○地域の歴史を知る上で重要な文化財の調査及び記録保存を行い、展示や報告書の刊行、学習講座の実施などを通じてそれらの成果を発信します。 ○小中学校と連携し、文化財資料を活用した地域学習を推進します。 ○お囃子などの地域の無形民俗文化財の継承のため、保存会の活動を支援します。 ○市内にある有形文化財等、地域の文化資源を社会教育や観光などで有効活用を図ります。 				

2. 施策指標と達成状況

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する指標です。

施策 目 標	指標1	指標名	歴史文化に係る学習講座への参加人数					
		説明	歴史文化に係る学習講座などに参加した延べ人数。市民の歴史文化に対する意識の高揚を図る指標となるため、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止による事業中止の影響により参加者が減少した。					
		単位	人					
	活動	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
		実績値	1,221	1,967	1,313			
	指標2	指標名	展示への来場者数					
		説明	展示会に来場した延べ人数。市民の歴史文化に対する意識の高揚を図る指標となるため、上福岡歴史民俗資料館・大井郷土資料館開催の展示参加人数を目標値とした。					
		単位	人					
	活動	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値	7,900	7,900	7,900	7,900	7,900	7,900
		実績値	7,082	6,581	9,253			
	指標3	指標名						
		説明						
		単位						
	活動	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値						
		実績値						
	指標4	指標名						
		説明						
	単位							
活動	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	説明							
	単位							
活動	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	目標値							
	実績値							

3. 施策への投入コスト

(単位：千円)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
支出	事務事業費	26,058	29,245	47,964	45,696		
	人件費	113,989	120,453	133,571	150,992		
収入	特定財源	6,983	10,666	10,349	29,751		
	一般財源	133,064	139,032	171,186	166,937		

4. 評価対象年度の施策実施内容

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する取組です。

		実施内容	実施実績と効果	主な事務事業
取組①	展示や学習講座の開催	特別展「ふじみ野の古墳と埴輪～ハケ遺跡古墳群と埴輪」、講演会「人物埴輪群像が表す世界」、企画展「戦時の人々の生活、思い、祈り」「懐かしのレコードinふじみ野」「ふじみ野の刀剣」「伝染病を予言する妖怪たち」等を開催した。	地域の歴史を知ってもらうための情報発信により、市民に市の歴史を理解してもらえる機会を提供できた。小学校3年生対象とした「昔のくらしと昔の学校」の展示では、社会科授業の一環として有効活用を図ることができた。	歴史民俗資料館教育普及事業の一部 郷土資料館教育普及事業の一部
取組②	地域学習の推進	学校で地域の歴史や民具を活用した体験学習が行えるよう、学校文化財展示室を文化財展示ボランティアと協働で設置した。	西原小学校で学校文化財展示室開設準備を行った。資料館所蔵資料の有効活用とともに、ボランティアとともに展示資料に関する調査や展示資料作成を進めることができた。	文化財展示室設置・活用事業
取組③	地域の文化資源の有効活用	市指定文化財回漕問屋福田屋（福岡河岸記念館）や国登録有形文化財旧大井村役場で特別公開の実施やイベント、体験学習を開催した。回漕問屋福田屋（特別公開7回、落語会1回、体験学習3回）／旧大井村役場（定期利用26回、体験学習1回）	福岡河岸記念館の特別公開では市外からの来館が多かった。落語会、裂織り体験を開催し、来館のきっかけづくりを行うことができた。旧大井村役場では水引の講座を開催した。ピンシャン体操やほうき作り友の会の活動場所として定期的な活用をすることができた。	歴史民俗資料館教育普及事業の一部 郷土資料館教育普及事業の一部 福岡河岸記念館管理運営事業の一部 文化財保護事業の一部
取組④				
取組⑤				

5. 評価

評価	
指標の達成状況	令和元年度に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大防止のために臨時休館した期間もあったが、それに応じて展示動画をインターネット配信したり、伝染病と人々の生活をテーマにした展示を行うなど、資料館事業の新たな試みを図った。さらに福岡河岸記念館の木造三階建て離れ及び旧大井村役場で特別公開、体験学習、古典芸能の公演を行ない、文化財の有効活用を図った。これらの事業をきっかけに初めて来館する市民も多いため、引き続き定期的な事業として実施するものである。 資料館に収蔵されている民具や土器等の文化財資料を有効活用するために、学校の教室を改装し、体験学習もできる文化財資料室を開設した。社会科の授業だけでなく、国語等他の教科でも活用されており、今後は季節に合わせた展示や教材として使える資料の展示などを行ない、文化財資料の活用をさらに進めていく。 市民ボランティアの協力を得てこれらの展示室開設準備や、福岡河岸記念館の特別公開を行うことができていることから、今後も文化財に対する市民の理解者を増やし、ボランティアの拡充を進めていく。
おおむね順調	
行政資源の活用	
おおむね適切	
取組の有効性	
おおむね有効	
施策の効果	
効果が得られている	

令和2年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名	文化財保護事業		前年度の方向性	継続
重点プロジェクト				
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー		
予算費目	一般会計 10教育費 04社会教育費 02文化財保護費			
所管部課	教育部 社会教育課		評価責任者	永倉秀雄
事務事業期間	平成17年度～		評価日	令和3年4月1日
個別計画 根拠法令・条例等	文化財保護法、埼玉県文化財保護条例、ふじみ野市文化財保護条例、ふじみ野市文化財保存事業補助金交付要綱、ふじみ野市文化財保護審議会に関する規則			
事務事業の内容	事務事業の目的	市域に残された文化財を後世まで永く伝えるとともに市民が文化財への理解を深めるための一助とする。		
	事務事業の経緯	文化財保護法及び埼玉県文化財保護条例、ふじみ野市文化財保護条例（旧上福岡市では昭和36年制定、旧大井町では昭和41年制定）に基づいて事業を実施している。		
	事務事業の概要	文化財を次世代に継承していくため、文化財の保護・保存及び普及・啓発事業を実施する。 1 文化財保護審議会の開催（年3回）：補助金審査及び市指定文化財の諮問、答申を行う。 2 文化財保存事業補助金の交付：市指定文化財4件、文化財保護団体等4件を上限に補助金を交付する。 3 市指定文化財管理事業：民間・個人等管理の市指定文化財20件に対し管理謝礼を支払う。川崎遺跡古墳墳時代住居跡・復元大井戸・権現山古墳群については業務委託により清掃、修繕等を実施する。 4 福岡河岸記念館、旧大井村役場活用事業：文化財に触れる機会を作るために体験学習事業等を行う。 5 小学校文化財展示室設置：児童が文化財に親しむ環境を作るために順次各校に展示室を設置する。		
	令和2年度の主な取組	1 市指定文化財の管理：市指定文化財総数57件のうち20件に対し管理費謝礼、嚙子保存会4件に対し補助金を支出した。 2 文化財普及啓発：市広報へ「歴史さんぽ」連載。市指定文化財案内板（ハケ古墳群出土埴輪）1件を新設、文化財案内板2点、標柱2本の修繕を実施した。 3 福岡河岸記念館、旧大井村役場活用事業：平成28年度、29年度に地方創生拠点整備交付金により改修工事を実施した「福岡河岸記念館」「旧大井村役場」の活用事業として体験学習等の事業を実施した。 4 小学校文化財展示室の設置：資料館と連携し、さぎの森小学校と東台小学校に続き、西原小学校において文化財展示室の設置準備を実施。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.45	1.15	1.25
		人件費	11,569	9,266	10,072
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		11,569	9,266	10,072	
事業費	報酬※	252	192	292	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	222	887	593	
	委託料	106	2,273	2,623	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	工事請負費	0	0	4,675	
	負担金、補助及び交付金	859	138	262	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費※	450	488	540	
支出合計		13,458	13,244	19,057	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	1,518	0
		その他	27	0	98
一般財源		13,431	11,726	18,959	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		117	101	165	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標	指標名	指定・登録文化財の件数		
	説明	指定・登録文化財の所在数は、市の文化財保護行政の取り組みの度合いを示すバロメーターである。最新の文化財指定は、平成31年1月23日指定の「ハケ遺跡古墳群1号墳出土埴輪」（人物埴輪7点）である。令和2年度に市指定文化財候補及び指定スケジュールを見直したため、令和3年度の目標値を59から57に修正した。		
活動	単位	件		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	58	58	57
	実績値	57	57	
指標	指標名	民俗芸能調査及び民俗文化財の保存事業補助団体件数		
	説明	囃子などの市内に残る伝統芸能の現況調査や民俗芸能保持団体への事業補助を行った件数により民俗文化財保護の取り組みの指標とする。		
活動	単位	件		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	6	6	6
	実績値	4	4	
指標	指標名			
	説明			
活動	単位			
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	1 文化財保護審議会：2回開催 文化財保存事業補助金審査及び市指定文化財「平野家住宅」茅葺屋根、躯体の歪み等の現状報告を行った。また、令和2年7月1日に市に寄附された旧回漕問屋江戸屋母屋及び穀藏の見学、行政文書整理の進捗状況について報告を行った。（第3回会議はコロナ感染予防のため中止とした）
	2 市指定文化財の管理・保護 令和3年3月現在、市指定文化財総数57件である。そのうち24件については、管理費謝礼又は事業費の一部を補助等の対象にしている。
事務事業の実施内容・効果	3 文化財普及啓発 市広報「歴史さんぽ」連載（資料館と隔月で担当）において市内文化財を紹介した。新たに「文化財だより」を刊行し、市内文化財の紹介や調査結果報告、イベント情報など最新情報の発信を開始した。また、「復元大井戸」「大井氷川神社」の案内板及び「三角の時計台跡」「従是川越迄二里十八丁」の標柱を修繕した。埼玉県指定史跡権現山古墳群では児童対象の夏休み権現山探検、権現山自然観察会を企画したが新型コロナウイルスの影響により中止にした。
	4 福岡河岸記念館、旧大井村役場活用事業 平成28年度、29年度に地方創生拠点整備交付金により改修工事を実施した「福岡河岸記念館」「旧大井村役場」の活用事業として体験学習等の事業を実施し、文化財の活用を進めた。 福岡河岸記念館 2回 19人参加／旧大井村役場 1回 3人参加（この他、ほうきづくり体験2回、水引体験1回は感染防止により中止）
事務事業の実施内容・効果	5 小学校文化財展示室の設置：資料館と連携し、さぎの森小学校（平成30年度開設）、東台小学校（令和元年度開設）に文化財展示室を開設したが、定期的な開室ができていないため、児童が繰り返し展示室に立ち寄れるような工夫、体制作りが課題である。西原小学校については設置準備を引き続き行っている。
	6 令和2年7月1日に寄附された旧回漕問屋江戸屋について、建物保存のための屋根養生修繕、仮柵設置、樹木剪定、維持管理業務委託、屋根補修工事実施設計委託を行った。

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	先人たちが大切に保存、継承してきた文化財は市民の宝であり、新たな文化創造の土台になるものである。そのため、地域の文化財を次世代に継承していくための保存事業や様々な媒体による情報の発信を継続していく必要がある。
中長期的方向性	また、福岡河岸記念館や旧大井村役場での体験事業や文化財ウォーキング等の事業への参加をきっかけに他の文化財や歴史に興味を持っていただくような流れを作ることが課題である。
継続	また、中長期的には、文化財行政及び資料館の管理運営に関する指針、計画を策定し、福岡河岸記念館や旧大井村役場などの活用を位置づけ、計画的に推進していく必要がある。事業を進めるにあたっては、文化財保護審議会委員や専門家の意見を参考にし、資料館・文化財ボランティアや文化財保護団体、地域住民などと連携しながら文化財保護の理解者、協力者を増やしていく必要がある。

令和2年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		埋蔵文化財調査事業		前年度の方向性	
				継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～			
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー			
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 02文化財保護費			
所管部課		教育部 社会教育課		評価責任者	永倉秀雄
事務事業期間		平成17年度～		評価日	令和3年4月1日
個別計画根拠法令・条例等		文化財保護法、埼玉県文化財保護条例、ふじみ野市文化財保護条例、ふじみ野市埋蔵文化財発掘調査指導要綱			
事務事業の内容	事務事業の目的	市域に残る埋蔵文化財の記録保存を行う。遺跡情報システムを運用することにより、市民への普及及び窓口業務等に活用する。			
	事務事業の経緯	文化財保護法及び埼玉県文化財保護条例・ふじみ野市文化財保護条例（旧上福岡市では昭和36年制定、旧大井町では昭和41年制定）及びふじみ野市埋蔵文化財発掘調査指導要綱に基づいて事業に着手している。			
	事務事業の概要	1 文化財保護法に基づき、埋蔵文化財の記録保存調査を行う。 2 市民への埋蔵文化財の情報提供及び窓口業務対応のため、市内遺跡・文化財情報システムの運用。地図頒布、チラシ頒布等サービスの向上をはかる。報告書の刊行・展示公開等により調査成果の公開、出土品の活用を図る。			
	令和2年度の主な取組	1 埋蔵文化財包蔵地照会対応、発掘調査の実施。調査の流れを明記したチラシを窓口で配布。 2 調査報告書『市内遺跡群25』の刊行。 3 最新出土品展の開催、大井郷土資料館特別展や他博物館等への資料出品、貸出。 4 遺跡・文化財情報システムにおける発掘調査測量図の更新。 5 遺跡地図の有償頒布（1部300円）を実施。 6 出土遺物の再整理とあわせて、小学校社会科に対応した学習用遺物貸出キットの作成に着手（国庫補助事業「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」）			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.75	1.75	1.42
		人件費	13,962	14,100	11,441
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	12.94	8.19	11.06
	人件費	17,729	16,136	22,829	
人件費計		31,691	30,236	34,270	
事業費	報酬※	0	14,869	21,264	
	賃金※	17,294	0	0	
	需用費	1,456	1,167	1,739	
	委託料	1,133	1,144	1,312	
	使用料及び賃借料	3,687	3,482	8,166	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	3,310	3,642	4,628		
支出合計		40,842	38,403	48,550	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	3,960	4,808	6,000
		県支出金	1,980	1,904	2,250
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	5	13	34
一般財源		34,897	31,678	40,266	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		305	273	351	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	開発に伴う周知の埋蔵文化財包蔵地への照会件数		
	説明	周知の埋蔵文化財包蔵地とその隣接地及び1,000㎡以上の大規模開発に伴い、施工主等の関係者からの問い合わせに対して行う。		
活動	単位	件		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	1,200	1,200	1,200
	実績値	1,391	1,311	
指標 2	指標名	本調査・試掘・立会い件数		
	説明	埋蔵文化財保護の記録保存、埋蔵文化財包蔵地範囲確認のために本調査・試掘・立会いを実施。		
活動	単位	件		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	50	50	50
	実績値	67	77	
指標 3	指標名	出土遺物等の公開		
	説明	文化財保護法の趣旨及び文化庁からの通達等に則り、出土遺物の展示公開を行った回数が市民への文化的遺産の還元の度合いの指標になる。		
活動	単位	回		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	5	5	5
	実績値	5	4	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>開発に伴う事前照会、事前協議書・発掘の届出書の提出を受け、試掘調査及び個人住宅建設に伴う発掘調査、工事立会いなどを行っている。これらの調査成果を報告書・展示・情報システム等で公開することにより、文化財保護の啓発や発掘調査に対する理解へつなげることができる。</p> <p>1 発掘調査の実績概要（令和3年2月末現在）</p> <p>①窓口・電話等による包蔵地照会は1,311件だった。照会時には必要に応じて調査の流れ等を記載したチラシを配布し、埋蔵文化財の重要性と調査の必要性、調査手順を周知することができた。</p> <p>②令和2年度の調査実績は、試掘調査が25件、本調査が2件、工事立会いが50件となった。</p> <p>③埋蔵文化財包蔵地を示した遺跡地図を、有償頒布（1部300円）し、普及に努めた。</p> <p>④平成30・令和元年度調査の報告書『市内遺跡群25』を刊行し、記録保存・調査成果の公開ができた。</p> <p>2 埋蔵文化財の活用</p> <p>①「最新出土品展－縄文のデザイナー－」を大井郷土資料館と上福岡歴史民俗資料館で開催し、調査により出土した遺物を公開した。埋蔵文化財の重要性とその調査の必要性を周知することができた。</p> <p>②大井郷土資料館令和2年度特別展「ふじみ野の古墳と埴輪－ハケ遺跡古墳群と埴輪－」に、市指定文化財「ハケ遺跡古墳群出土人物埴輪」などの出土品を出品した。このほか朝霞市博物館のギャラリー展示「午房地山と武蔵野台地の横穴墓」に、富士見台横穴墓群の写真を貸出し、多くの方々に見ていただく機会を得た。また、イオンタウンふじみ野において「ハケ遺跡古墳群と埴輪展（12/9～2/8）」を開催した。</p> <p>③地理情報システムを利用して構築した「遺跡・文化財情報システム」については、令和2年度も更新分構築業務を業務委託し、埋蔵文化財調査成果・発掘調査測量図、文化財解説板「ハケ遺跡古墳群と人物埴輪」の情報を更新した。</p> <p>④出土遺物の活用を図るため、遺物の再整理と小学校社会科授業で活用することを想定した学習用遺物貸出キットの作成に着手した。（国庫補助事業「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」）</p>
--------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	文化財保護法に基づき、埋蔵文化財保護を目的として発掘調査事業を行っている。発掘調査の実施に当たっては工事主体者に対し十分な説明を行い、発掘調査及び開発が円滑に進むよう進めていく必要がある。
中長期的方向性	また、調査報告については整理作業終了後、速やかに報告書として刊行し、紙媒体及びデータでの公開を行ない、遺物等の展示公開を行うことで、市民の埋蔵文化財への理解を深めていく。
継続	

令和2年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名	権現山古墳群保存管理事業		前年度の方向性	継続
重点プロジェクト				
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー		
予算費目	一般会計 10教育費 04社会教育費 02文化財保護費			
所管部課	教育部 社会教育課	評価責任者	永倉秀雄	
事務事業期間	平成17年度～	評価日	令和3年4月1日	
個別計画 根拠法令・条例等	文化財保護法、埼玉県文化財保護条例、ふじみ野市文化財保護条例			
事務事業の内容	事務事業の目的	平成14年3月に作成した権現山墳墓群保存管理計画に基づき、埼玉県指定史跡権現山古墳群の保全及び活用を図る。		
	事務事業の経緯	文化財保護法及び埼玉県文化財保護条例、ふじみ野市文化財保護条例に基づいて事業に着手している。平成14年3月22日に県指定史跡に指定され、平成15年度から県費補助を受けて整備事業を実施し、平成22年11月1日から公有地部分の一般開放を実施している。		
	事務事業の概要	県指定史跡権現山古墳群の保存管理及び活用事業を実施する。 市内滝地区の新河岸川沿いにある権現山遺跡は、3世紀後半から4世紀初頭に造られ、前方後方墳1基と方墳11基の古墳からなっている。墳丘が現存する希少な初期古墳群であり、古墳文化の波及状況を示す上で学術的に重要な遺跡であるとして、遺構が良好に残存する6基の古墳と出土土器7点が平成14年3月22日に埼玉県指定史跡に指定された。 古墳に張り巡らされた溝から出土した壺や高坏は、葬送儀礼に用いられ、古墳の年代を判断する上で手がかりとなる。これらは現在、上福岡歴史民俗資料館に常設展示され、郷土史の一端を伝えている。		
	令和2年度の主な取組	1 管理計画に基づき、敷地内の伐木作業を実施。例年は9月頃を実施していたが、年度末まで実施を遅らせ、予算流用を行った上で倒木の危険度の高い2号墳墳丘上を中心に近隣電力線に支障のある樹木8本の伐木を行った。 2 市民参加によるボランティア活動については、権現山クラブによる定期的な清掃活動を実施し、一般から市民参加を募り、年末に清掃活動を実施予定していたが、コロナウイルス対策のため、例年の市民参加募集を中止し、権現山クラブの会員6名及び職員4名により年末に実施した。 3 見学会及び団体見学会については、権現山冬越しの生き物及び権現山探検（土中鉱物観察）をテーマに実施予定だったが令和3年1月7日からの緊急事態宣言及び宣言延長により中止とした。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.70	0.65	0.70
		人件費	5,585	5,238	5,640
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		5,585	5,238	5,640	
事業費	報酬※	0	0	0	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	13	198	23	
	委託料	705	1,978	1,264	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	14	16	20	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費※	0	0	0	
支出合計		6,317	7,430	6,947	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		6,317	7,430	6,947	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		55	64	61	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	遺跡及び緑地保全のための整備		
	説明	埼玉県指定史跡範囲及びその周辺を散策する遊歩道整備等の工事、説明板を設置した作業、管理作業の回数により、古墳群保護の指標とする。		
活動	単位	回		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	3	3	3
	実績値	4	7	
指標 2	指標名	市民参加によるボランティア活動		
	説明	地域住民が実施している自主的な清掃、見回りや普及活動の回数をもって、史跡保存に対する市民参加の度合いを測る。		
活動	単位	回		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	12	12	12
	実績値	12	12	
指標 3	指標名	見学会開催及び団体見学		
	説明	一般開放への入場者は現地でカウントすることが困難なため、団体見学の申し出と市が主催する見学会及び展示等の回数をもって、市民・関係者による活用の度合いを算出する。 令和2年度については、新型コロナウイルス蔓延に伴う緊急事態宣言（4月～5月）、（令和3年1月～3月21日）が出されたため、防疫上の観点からすべての活動を中止した。		
活動	単位	回		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	3	3	3
	実績値	3	0	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>1 公有地部分の一般開放（平成22年11月1日～）</p> <p>2 管理及び教育普及事業</p> <p>(1) 清掃・除草・剪定・補修等 指定文化財清掃委託事業 通年で草むしり、ゴミ拾い、落葉清掃を実施。職員による剪定、枯れ木の伐採を随時実施。業者委託による剪定作業については令和3年3月17～19日に北東側電線支障枝部分を実施。本年度、東側入り口付近の土留めが経年劣化により一部損傷、土留め改修工事を実施</p> <p>(2) カラーリーフレットの配布 平成24年2月から職員手作りによるリーフレットを作成・配布した。</p> <p>(3) 市民ボランティアとの協働活動 権現山古墳群の周知と市民の文化財愛護の意識を育てることを目的として、権現山クラブと協働し、落ち葉掃きを実施（12月25日）。ただし、防疫のため本年度は権現山くらぶ会員6名と社会教育課職員4名のみで実施</p> <p>(4) 権現山冬越しの生き物 権現山古墳群史跡の森で冬越しをする生き物たちの観察を行う。 実施予定日 2月20日（講師 県立自然の博物館学芸員） ※新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う緊急事態宣言延長により中止</p> <p>(5) 夏休み権現山探検 当初実施予定日 8月6日延期後、令和3年3月13日 内容 権現山古墳群で土を採取し土中の鉱物観察を行う。 講師 久津間文隆氏（本市文化財保護審議会委員） 定員10人 ※新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う緊急事態宣言延長により中止</p>
--------------	--

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	県指定史跡を含む権現山古墳群の古墳と自然を後世に伝えていくため、計画的な整備の実施や周知のための活動を行い、より一層多くの方に足を運んでもらうよう公開や活用事業を展開していく。 また、後世に伝えていくためには市民の文化財愛護意識が重要であるため、権現山古墳群の保存、公開、活用を通じて文化財ボランティアの更なる増員を図っていく。
中長期的方向性	
継続	

令和2年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名	民間開発発掘調査事業		前年度の方向性	継続
重点プロジェクト				
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー		
予算費目	一般会計 10教育費 04社会教育費 02文化財保護費			
所管部課	教育部 社会教育課	評価責任者	永倉秀雄	
事務事業期間	平成17年度～	評価日	令和3年4月1日	
個別計画 根拠法令・条例等	文化財保護法、埼玉県文化財保護条例、ふじみ野市文化財保護条例、ふじみ野市埋蔵文化財発掘調査指導要綱			
事務事業の内容	事務事業の目的	市域の開発工事に先立ち、埋蔵文化財の調査を実施することにより、文化財の記録保存を行う。		
	事務事業の経緯	文化財保護法及び埼玉県文化財保護条例・ふじみ野市文化財保護条例（旧上福岡市では昭和36年制定、旧大井町では昭和41年制定）、ふじみ野市埋蔵文化財発掘調査指導要綱に基づいて事業に着手している。		
	事務事業の概要	本市内における民間開発発掘調査事業は、業者・個人が建売・集合住宅建設、店舗建設など営利を目的とした開発を行う際に、試掘調査を経て市と関係者が協議し、開発行為により遺跡保存ができない場合に原因者負担と言う形で調査を実施する。その成果は報告書の作成・刊行により原因者に報告するとともに、遺構等の記録保存と後世への普及・伝達を図ることができる。 発掘・整理（遺物整理等及び報告書刊行）を複数年度で実施するため、発掘調査開始時に契約書を原因者と作成し、市が原因者から調査委託されるという形で契約を締結する。埋蔵文化財調査事業と同様に、市民・開発業者に埋蔵文化財の重要性和その必要性の周知と教育普及を行う。		
	令和2年度の主な取組	埋蔵文化財調査事業も含め遺跡包蔵地内での調査件数が前年に比べて少ない。 令和3年2月28日現在、本年度提出された事前協議書83件、発掘届出86件の内、民間開発発掘調査を実施したのは1件のみだった。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.60	0.55	0.55
		人件費	4,787	4,432	4,432
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	3.32	6.25	6.25
	人件費	336	1,036	12,084	
人件費計		5,123	5,468	16,516	
事業費	報酬※	0	1,018	11,916	
	賃金※	335	0	0	
	需用費	19	0	1,094	
	委託料	0	0	2,595	
	使用料及び賃借料	118	569	4,532	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	1	17	788		
支出合計		5,260	6,037	25,357	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	473	1,605	20,925
一般財源	4,787	4,432	4,432		
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		42	38	39	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	民間開発発掘調査・整理の件数		
	説明	民間開発による文化財破壊を防ぎ、市民・関係者の理解・協力により文化財保護を達成できた指標として設定した。 令和2年度実績が1件であったため、令和3年度の目標値を10から1に修正した。		
活動	単位	件		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	10	10	1
	実績値	1	1	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	発掘調査の実績概要及び民間開発調査実施状況
	<p>1 令和元年度事前協議書と発掘の收受件数</p> <p>(1) 事前協議書 83件</p> <p>【主な内訳】</p> <p>試掘調査実施 25件</p> <p>本調査実施 2件（個人住宅1件・民間開発1件）</p> <p>工事立会い 50件（1,000㎡以上開発、埋蔵文化財隣接地含む）</p> <p>内包蔵地外11件、試掘後立会2件</p> <p>令和元年度からの繰越 14件</p> <p>令和3年度への繰越 9件</p> <p>(2) 発掘届け 86件</p> <p>【主な内訳】</p> <p>発掘調査（工事等で埋蔵文化財が破壊される場合） 3件</p> <p>慎重工事（試掘調査のみの場合、本調査終了済等） 35件</p> <p>工事立会（埋蔵文化財への保護層が確保される場合等） 40件</p> <p>未定 1件</p> <p>繰越 4件</p> <p>始末書（事前協議・発掘の届未提出で土木工事実施） 3件</p> <p>2 実施状況</p> <p>合計 1件</p> <p>(1) 発掘調査実施 合計1件</p> <p>① 本村遺跡第9地点（本調査 令和3年2月22日～令和3年3月31日）</p>

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	文化財保護法に基づき、埋蔵文化財保護を目的として発掘調査事業を行っている。民間開発による発掘調査の費用は工事主体者側が負担することから、今後も工事主体者に対し十分な説明を行い、発掘調査及び開発が円滑に進むよう進めていく必要がある。
中長期的方向性	また、調査報告については整理作業終了後、速やかに報告書として刊行し、紙媒体及びデータでの公開を行っていく。
継続	

令和2年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		歴史民俗資料館管理運営事業		前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～			
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー			
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 05資料館費			
所管部課		教育部 上福岡歴史民俗資料館		評価責任者	高崎 直成
事務事業期間		平成17年度～		評価日	令和3年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		ふじみ野市資料館条例、ふじみ野市資料館条例施行規則、ふじみ野市資料館運営協議会規則			
事務事業の内容	事務事業の目的	市民の郷土に関する教育、学術・文化の発展に寄与するため、旧上福岡地域の歴史、民俗を紹介することを通して、先人たちが育んできた数多くの郷土の文化遺産を収集・保存すると共に、これらの資料を多くの市民に知ってもらうよう展示公開するための施設整備、維持管理を行う。			
	事務事業の経緯	開館以来、市民の郷土に関する教育、学術及び文化の発展に寄与するため、歴史・民俗を紹介することを通して、先人が育んできた数多くの郷土の文化遺産を収集し・保存すると共に、これらの資料を多くの方々に知っていただくように展示公開するための施設の維持管理に務めてきた。			
	事務事業の概要	上福岡歴史民俗資料館の施設維持、管理及び開館業務			
	令和2年度の主な取組	資料館事業に市民や小中学校の意見を反映させるため資料館運営協議会を開催した。来館者の安全安心の観点から、良好な利用環境を整備するために資料館施設管理（機械警備・消防設備保守点検・自動ドア保守点検・塵芥収集・清掃・樹木剪定）を実施した。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.18	2.15	2.10
		人件費	9,415	17,323	16,920
	再任用職員	従事人数(人)	0.80	0.00	0.00
		人件費	3,076	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		12,491	17,323	16,920	
事業費	報酬※	48	32	64	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	1,260	980	1,284	
	委託料	1,269	1,198	1,479	
	使用料及び賃借料	25	23	39	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	24	24	24	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	160	1,284	171		
支出合計		15,277	20,864	19,981	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	1	2	2
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	139	203	5
一般財源		15,137	20,659	19,974	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		132	178	174	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	入館者の拡大		
	説明	市民のニーズを反映した資料館運営を行い、地域密着型の社会教育施設として入館者の増加を目指す。		
活動	単位	人		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	5,500	5,500	5,500
	実績値	4,587	2,805	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年4月1日～5月31日及び12月26日～令和3年1月17日までを臨時休館とした。</p> <p>資料館事業に市民や小中学校の意見を反映させるため資料館運営協議会を設置している。委員は校長、小中学校社会科教諭、文化財保護審議委員、資料館活動団体、学識経験者など多方面の委員で構成されていることから幅の広い意見をいただいております、更なる運営向上につながるものと考えています。</p> <p>令和2年度は計2回運営協議会を開催し、事業計画及び事業報告の承認をいただくとともに、新型コロナウイルス対策として、小学校3年生の体験学習の在り方等についてご意見を伺った。</p> <p>来館者の安全安心を視点に資料館施設管理（機械警備・消防設備保守点検・自動ドア保守点検・塵芥収集・清掃・樹木剪定）を実施した。自動ドアの不具合があったことから、ドアセンサーの修繕を行うとともに、外の掲示板ガラスが劣化・破損していたため、ガラスの取替修繕を行った。さらに、日常管理において職員による防護柵の塗装の塗り直しや外壁のひび割れ箇所の塗装などの修繕を行った。</p> <p>さらに、正面入り口の自動ドアをスムーズに作動させ、維持管理を円滑に進めるために、NPO法人全国自動ドア産業振興会が福祉増進と地球温暖化防止等を目的に毎年募集・実施している自動ドア寄附事業に申請し、駆動システム等の交換を行うことができた。</p> <p>資料館用地の分筆・登記と移管を行い、市の公有財産の適切な管理を行った。</p> <p>以上のような施設の適切な運営を通して、多くの方々が安心して来館でき、快適に見学できるよう対応することにより、来館者の増加につながると考える。</p>
------------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	市民の郷土に関する教育、学術・文化の発展に寄与するため、旧上福岡地域の歴史、民俗を紹介することを通して、先人たちが育ててきた数多くの郷土の文化遺産を収集・保存すると共に、これらの資料を多くの市民に知ってもらうよう展示公開し、地域への愛着を深めるものである。
中長期的方向性	
継続	

令和2年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		歴史民俗資料館教育普及事業		前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～			
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー			
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 05資料館費			
所管部課		教育部 上福岡歴史民俗資料館		評価責任者	高崎 直成
事務事業期間		平成17年度～		評価日	令和3年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		博物館法、ふじみ野市資料館条例、ふじみ野市資料館条例施行規則、ふじみ野市資料館の資料に関する規則			
事務事業の内容	事務事業の目的	市民から寄贈された貴重な文化遺産を保存し、地域の特色を意識した資料収集を行い、資料の調査研究の成果を常設展示及び特別展・企画展、学習講座を実施することにより、紹介、活用する。また必要に応じて成果の一部を図録等の刊行物にまとめて展示成果の追体験が行えるようにする。			
	事務事業の経緯	歴史や郷土史、文化財への関心をもつ市民の学習ニーズに応えるために講座・体験学習及び特定のテーマを決めて展示会を実施している。内部講師の活用や資料館利用団体との協働事業の開催、特別展の主会場を大井郷土資料館とする事業分担等により経費削減を図るとともに、「ふじみ野市」の資料館としての役割の再構築を試みている。			
	事務事業の概要	市の歴史・民俗のなかでも、新河岸川を展示主題においた常設展示を行うとともに、テーマを設けて、実物資料や写真パネルなどで構成する特別展・企画展等を開催することで、これまでの調査研究の成果を紹介する。市民対象の学習講座・体験学習等の実施及び市民から提供された貴重な資料の収集整理を実施する。			
	令和2年度の主な取組	資料館友の会と協力して、成人向け藍染め体験学習1回、子ども対象体験学習を年2回、新型コロナウイルス感染症対策に注意しながら実施した。資料館通信は、76号、77号、78号の3回刊行し、展示や事業内容の周知、普及に努めた。小学校3年生向け「昔のくらしと昔の学校」は例年通り展示を行ったが、感染症対策として小学校児童の来館が困難なため資料館・文化財ボランティアと協働して学校に赴いて体験学習を行った。特別展は埴輪の写真やパネルなどを中心に展示した。また本市の歴史・考古・民俗について、社会で話題となっている問題、内容を取り上げ随時ミニ展示を行った。一方で、寄贈資料の整理、台帳づくり及びデータ化作業を進めた。さらに感染症対策による資料館臨時休館を契機に、新たな取り組みとして、企画展示の様子を撮影した動画を作成して配信した。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.40	1.50	1.40
		人件費	11,170	12,086	11,280
	再任用職員	従事人数(人)	0.10	0.00	0.00
		人件費	385	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.79	0.58	0.61
	人件費	0	1,166	1,172	
人件費計		11,555	13,252	12,452	
事業費	報酬※	0	1,161	1,172	
	賃金※	1,082	0	0	
	需用費	135	134	139	
	委託料	0	0	0	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	107	80	304		
支出合計		12,879	13,461	12,895	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	217
一般財源		12,879	13,461	12,678	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		113	116	111	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	記念館を含めた展示会の回数		
	説明	継続的な実施回数が評価の有効な指標と考えられる。また、普段非公開の河岸記念館「離れ」の特別公開日及びミニ展示を含む。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による4～5月の臨時休館、12月～1月の臨時休館があったが、「河岸記念館のお正月」特別出品「旧福田屋の至宝-川越藩本丸御殿杉戸絵、尾形月耕真筆襖絵-」などの新たな試みも行って展示会数の維持に努めた。		
活動	単位	回		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	20	22	22
	実績値	22	21	
指標 2	指標名	展示会への来場者数		
	説明	市民の郷土への理解と歴史・文化、歴史資料に対する意識の高揚を図る指標となるため。		
成果	単位	人		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	3,900	3,900	3,900
	実績値	2,870	3,613	
指標 3	指標名	学習講座の参加人数		
	説明	市民の郷土への理解と歴史・文化や文化財への関心を深めていただくために特別展記念講演会を中心に各種学習講座を開催している。参加人数は教育普及事業の効果を示す有効な指標になると考える。		
成果	単位	人		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	850	850	850
	実績値	1,109	636	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>1 展示事業</p> <p>(1) 上福岡歴史民俗資料館企画展及び資料館特別展（会場：2階ホール）企画展2回、特別展の上福岡会場として「ふじみ野の古墳と埴輪」の写真展、「最新出土品展」を実施した。</p> <p>(2) ミニ展示 企画展の合間に小規模な資料展示等を3回実施</p> <p>2 教育普及事業</p> <p>(1) 学社連携事業として、博物館学芸員実習生受け入れ(4人)、小学校3年生対象社会科体験学習及び展示「昔のくらしと昔の学校」（会期：1/12～3/4）を実施した。今年度は新型コロナウイルス感染症対策で、4校の出前授業を実施した。</p> <p>(2) 成人対象体験学習を年1回（藍染め）、子ども対象体験学習を年2回（郷土の伝承あそび「竹とんぼづくり」、ダンボールをつかったはたおり）を新型コロナウイルス感染症対策で接触が少なくなることにも努め、通常の半分の数で実施した。</p> <p>(3) 団体学習者の受け入れ、市民大学講座、上福岡歴史民俗資料館友の会との相互協力、資料館文化財ボランティアの運営、出前講座等を実施した。</p> <p>(4) 資料館通信を76号（6/2）、77号（8/18）、78号（2/18）の3回刊行し、事業内容の周知、普及に努めた。</p> <p>(5) 新型コロナウイルス感染症対策による資料館臨時休館を契機に企画展示の様子を、学芸員実習の学生や亀久保小学校の児童と協力して動画を作成、配信した。</p> <p>3 資料保存活動</p> <p>年間を通し寄贈資料の受け入れ、登録及び資料整理を行い、収蔵資料のデータベース化を進めた。生活困窮者就労準備支援事業の協力として収蔵資料のデータ入力作業を依頼した。上記1～2の事業を通して、郷土の歴史に対する理解を深める機会を提供するとともに、資料の公開及び活用を進めた。</p>
--------------	--

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	市民にとって最も身近に接することが多い常設展示に加えて、資料館と市民が一体となって実施する企画展、市民が講師になる体験学習や講座は、地域の歴史や文化を伝えるために必要不可欠な事業である。今後も「郷土ふじみ野」を市民に再認識・再発見してもらうための重要な機会として継続する。
中長期的方向性	
継続	

令和2年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		文化財展示室設置・活用事業		前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～			
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー			
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 05資料館費			
所管部課		教育部 上福岡歴史民俗資料館		評価責任者	高崎 直成
事務事業期間		平成28年度～		評価日	令和3年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		教育基本法、文化財保護法、学校教育法、社会教育法、博物館法、小学校学習指導要領 ふじみ野市資料館の資料に関する規則 ふじみ野市教育振興基本計画			
事務事業の内容	事務事業の目的	上福岡歴史民俗資料館や大井郷土資料館などで収集・保存してきた歴史資料は、地域にとって貴重な文化財である。そうした文化財を活用して、ふじみ野市、学校、地域住民が協働しながら、郷土ふじみ野を理解し郷土を愛する市民の育成をはかる。			
	事務事業の経緯	市内の小学校には、30年ほど前から地域住民の協力によって収集された資料を活用した展示室がいくつか設置されている。教材への活用や地域の文化財としての関心や理解はあるが、資料の破損や解説の不備などから十分に活用されているとは言えない。そこで、体験学習を取り入れた展示を目指すため、展示室の再構築や新規設置に努めている。			
	事務事業の概要	市内各小中学校の教室や有効スペースに、既存の資料や上福岡歴史民俗資料館・大井郷土資料館などで収集・保存してきた資料を有効活用して文化財展示室の設置や文化財資料の展示をする。設置にあたっては学校、社会教育課（資料館・文化財保護係）、地域住民（以下文化財展示室ボランティア）が協働で行う。児童や教師が広く学習の場として活用するだけでなく、将来的には一般市民への公開・活用も視野に進める。			
	令和2年度の主な取組	さぎの森小学校では設置した文化財展示室を各学年の授業や3年生の体験学習などに使用している。西原小学校文化財展示室は、特徴ある展示を行うため、地元の方から地域の歴史や生活などについて聞き取り調査や実地調査を実施し、職員・ボランティア対象の研修を実施した。設置作業として資料の搬入、民家の部屋の復元、農具の展示、子供神輿の修復、カマド模型や昔の食事の模型作りを行った。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.50	0.80	0.70
		人件費	3,989	6,446	5,640
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		3,989	6,446	5,640	
事業費	報酬※	0	0	0	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	100	102	102	
	委託料	0	0	0	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	40	22	51		
支出合計		4,129	6,570	5,793	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		4,129	6,570	5,793	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		36	57	51	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	文化財展示室・文化財展示設備の設置数		
	説明	文化財展示室・文化財展示設備の設置作業を実施した小・中学校数が学校、地域住民（文化財展示室ボランティア）、社会教育課（資料館など）による地域協働学校事業の指標となるため		
活動	単位	校		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	1	1	1
	実績値	1	1	
指標 2	指標名	ボランティア参加人数(成果指標に移動)		
	説明	文化財展示室ボランティアへの参加人数が地域協働学校の活動や郷土ふじみ野を理解する市民の育成をはかる指標となるため		
活動	単位	人		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	30	30	30
	実績値	25	31	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>今年度の実施内容</p> <p>1 さぎの森小学校では、文化財展示室の活用として各学年の授業と小学校3年生の昔のくらし体験学習を実施した。</p> <p>2 西原小学校文化財展示室は、特徴ある展示を行うため、地元の方から地域の歴史や生活などについて聞き取り調査や実地調査を実施し、職員・ボランティア対象の研修を実施した。設置作業として資料の搬入、民家の部屋の復元、農具の展示、子供神輿の修復、カマド模型や昔の食事の模型作りを行った。また文化財展示室ボランティアと地元有志の方がさぎの森小学校文化財展示室の見学を行った。</p>
------------------	--

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	市内の各小学校に文化財展示室の設置を進めるとともに、文化財展示ボランティアや地域住民と協働で小学生への授業などへの活用と広く公開を目指していく。
中長期的方向性	
継続	

令和2年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		郷土資料館管理運営事業		前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～			
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー			
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 05資料館費			
所管部課		教育部 大井郷土資料館		評価責任者	高崎 直成
事務事業期間		平成17年度～		評価日	令和3年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		ふじみ野市資料館条例、ふじみ野市資料館条例施行規則、ふじみ野市資料館運営協議会規則			
事務事業の内容	事務事業の目的	資料館を通して、地域の歴史に密接した資料を収集・保存し、多くの市民に展示公開する。			
	事務事業の経緯	市民の学習・憩いの場として昭和63年に開館。当該管理運営業務は、常設展示室、郷土学習室、事務室、資料室の維持管理を主な業務としている。平成25年度からは学芸係長を配置し、展示、資料の問合せ等の対応を図っている。現在、大井郷土資料館常駐の職員は、管理係3名、学芸係2名である。			
	事務事業の概要	常設展示室は、開館当初に原始・古代から現代に至る時間の流れに沿った資料を展示するように設計されており、それぞれの時代にあった収蔵資料を随時展示している。また、特別展及び季節展示等を開催している。			
	令和2年度の主な取組	資料館においては、多くのニーズに応えるためアンケート箱の設置や館内の環境美化につとめ、来館者が見学しやすい空間となるように努力した。主な取組としては、展示資料を見やすくするために展示室天井の照明をLED電球に付け替えた。 令和2年度は、展示室内の展示環境を更に改善するために、近代ケースにおける照明器具の修繕を行った。大井郷土資料館が管理する旧大井村役場庁舎については、台所出入口の硝子が破損したので緊急修繕をおこなった他、2階窓の窓枠や大谷石の壁、敷石の補修を職員が行い、文化財建造物の保全に努めた。また、令和2年度からぴんしゃん体操を行う地域の団体の活動に旧大井村役場の部屋の提供を開始した。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.40	1.79	1.90
		人件費	11,170	14,423	15,309
	再任用職員	従事人数(人)	0.40	0.00	0.00
		人件費	1,538	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		12,708	14,423	15,309	
事業費	報酬※	0	0	0	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	529	301	460	
	委託料	272	334	345	
	使用料及び賃借料	45	49	53	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	51	50	75		
支出合計		13,605	15,157	16,242	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		13,605	15,157	16,242	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		119	130	142	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	入館者数の増加		
	説明	市民のニーズを反映した資料館運営を行い、地域密着型の社会教育施設として入館者の増加を目指す。令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年4月1日から5月31日及び12月26日から令和3年1月17日までを臨時休館としたが、10月から12月開催の特別展・企画展が好評だったので入館者は増加した。		
活動	単位	人		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	9,000	9,000	9,000
	実績値	7,722	7,887	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>大井郷土資料館では次の管理運営事業を実施した。</p> <p>(1) 来館者を迎える常設展示室は建築後30年以上が経過して老朽化している。照明設備や展示設備も傷んでおり、全体的に暗く、展示室内の照明についても以前から照明器具の球切れが頻繁に発生するのでLED電球の交換により順次LED化を進めた。その結果、展示資料が見やすくなり、来館者の展示資料観覧環境が向上した。令和2年度は、展示室内の展示環境を更に改善するために、近代ケースの照明器具の修繕を行った。</p> <p>(2) 旧大井村役場庁舎については、建築後80年以上が経過し、平成17年度・平成29年度に改修工事を実施したが、経年劣化は進行している。令和2年度は台所出入口の硝子が破損したので緊急修繕をおこなった他、2階窓の窓枠や大谷石の壁、敷石の補修を職員が行い、文化財建造物の保護に努めた。これらの改善により、令和2年度から旧大井村役場を会場として提供を開始したびんしゃん体操の市民グループにも、文化財に親しみながら気持ちよく使用していただくことができた。</p>
--------------	--

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	常設展示室は、開館当初に原始・古代から現代に至る時間の流れに沿った資料を展示するように設計されており、それぞれの時代にあった収蔵資料を随時展示している。また、特別展及び季節展示等を開催している。これらは地域の歴史や暮らしを理解するにあたり重要な役割を持つと共に、地域への愛着を深めるものである。
中長期的方向性	旧大井村役場は国登録有形文化財として貴重な建造物であるとともに、市民団体の活用スペースとして整備されてきたので、建造物の文化財としての保護と活用を両立させた管理が必要になっている。
継続	

令和2年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		収蔵資料整理事務		前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～			
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー			
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 05資料館費			
所管部課		教育部 大井郷土資料館		評価責任者	高崎 直成
事務事業期間		平成17年度～		評価日	令和3年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		博物館法、ふじみ野市資料館条例、ふじみ野市資料館条例施行規則、ふじみ野市資料館の資料に関する規則			
事務事業の内容	事務事業の目的	郷土の歴史に関わる資料を収集し、それを展示等の教育普及事業でも活用できるように整理していく。			
	事務事業の経緯	ふじみ野市資料館条例第3条に資料館の業務の一つとして「市の歴史、考古、民俗等に関する資料の収集、保存及び調査研究に関すること」が謳われている。これを受けて資料館は開館以来資料の収集、保存及び調査を行っている。			
	事務事業の概要	大島家収蔵資料等の諸家文書の整理を行う。 収集資料を紙の台帳に手書きで登録しているが、台帳整理の効率化を図るため、収蔵事業のデータ化を進める。			
	令和2年度の主な取組	通年で収蔵資料についてアクセスへのデータ化を進めており、これまでの紙台帳に添付していた資料の白黒写真を順次デジタルカメラで再撮影及び計測等を行い、令和2年度は計336点をデータベース化した。大島家収蔵資料の整理事務では中性紙封筒への入れ替え作業を行う必要があったが、新型コロナウイルス感染症対策により小中学校が休校した期間中に給食センター職員など助けを得て496箱のうち139箱の詰め回作業を実施することができた。大井郷土資料館で12回の展示会を開催、収蔵資料の公開・活用を図った。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.60	1.00	0.90
		人件費	4,787	8,057	7,252
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	1.60	1.38	1.27
	人件費	2,306	2,510	2,749	
人件費計		7,093	10,567	10,001	
事業費	報酬※	0	2,400	2,424	
	賃金※	2,318	0	0	
	需用費	440	73	99	
	委託料	0	0	0	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	161	188	212		
支出合計		7,707	10,718	9,987	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		7,707	10,718	9,987	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		67	92	87	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	収蔵資料のデータベース化		
	説明	資料検索・利活用の迅速化を図るため、紙の台帳をデータベース化した資料点数を指標とする。		
活動	単位	点		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	300	400	400
	実績値	400	336	
指標 2	指標名	大島慶一郎家寄贈資料分類整理		
	説明	資料整理・公開に向けて目録化作業を行った資料点数が指標となるため		
活動	単位	点		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	300	400	400
	実績値	550	139	
指標 3	指標名			
	説明			
活動	単位			
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	0	0	0
	実績値	0	0	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>1文化財資料の収集及び収蔵資料の整理事業 地域の歴史・文化を明らかにするため、文化財資料の収集・調査を行った。令和元年度も貴重な民俗資料及び歴史資料を寄贈していただき、寄贈された資料は台帳に登録し、収蔵庫に大切に保存した。さらに資料の社会教育、学校教育の場での活用を図るため、分類整理を行った上で目録化を進めた。郷土に残る伝承や技術など無形の文化財についても調査、記録化を行い将来への継承を図った。また、資料の調査や整理の成果は、一部資料館通信等でも紹介した。</p> <p>(1)大井郷土資料館令和2年度受け入れ資料、歴史・民俗資料59点。郷土図書 173点</p> <p>2データベース化・デジタル化の推進 紙ベースによる従来からの資料管理では、年々増加する収蔵資料への対応が難しくなってきた。そこで、収蔵資料台帳のデータベース化を進め、資料に関するデータの修正等を簡易にし、あわせて検索の迅速化など資料管理の能率化を目指した。</p> <p>3大島家文書分類・整理・目録化 戦後大井地域の歴史、特に地域医療活動を知る上で重要な大島家文書について、分類整理を行い、整理の完了した分は平成25年度に『大井医院・大島慶一郎関係資料目録Ⅰ』として刊行した。現在は『資料目録Ⅱ』の刊行をめざし、分類・内容の確認とあわせて、中性紙封筒への入れ替え作業を進めた。</p> <p>4 文化財展示室設置に向けた資料整理と保管スペースの確保 社会教育課文化財保護係と連携して実施している市内小中学校における文化財展示室設置に向けて、資料館収蔵庫等の資料整理を実施した。</p>
------------------	--

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	収蔵資料の整理分類と登録、収蔵、保管は資料館の存在意義に関わる事業である。また、市民への公開（展示）をはじめとする資料の利活用の推進と郷土の歴史・民俗の掘り起こし、調査の基礎となる事業である。
中長期的方向性	
継続	

令和2年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		郷土資料館教育普及事業		前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～			
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー			
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 05資料館費			
所管部課		教育部 大井郷土資料館		評価責任者	高崎 直成
事務事業期間		平成17年度～		評価日	令和3年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等					
事務事業の内容	事務事業の目的	地域に関連した収集資料を基に事業展開し、市民に展示すると共に、子どもには体験を通して郷土に対する理解・関心を深めてもらう。			
	事務事業の経緯	ふじみ野市資料館条例第3条第2号には、館の業務として資料の展示及び知識の普及並びに啓発に関することが謳われている。当該事業は、これに基づいて実施しているものである。			
	事務事業の概要	一般〔大人〕向けの事業として古文書講座や展示会等を実施し、子ども対象の事業は藍染教室、縄文土器作り教室の他、上福岡歴史民俗資料館との共通事業で社会科体験学習や郷土の伝承あそびを実施していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、一部中止した。なお、特別展は上福岡歴史民俗資料館と隔年で開催し、平成28年度からは展示スペースの問題から大井郷土資料館を主会場としていたが、令和元年度から上福岡歴史民俗資料館でも一部展示を実施し、図録作成・頒布を行っている。また、資料館文化財ボランティアを運営している。			
	令和2年度の主な取組	展示は特別展「ふじみ野の古墳と埴輪」、巡回企画展「戦時の人々の生活、思い、祈り」「最新出土品展」、企画展「伝染病を予言する妖怪たち」「ふじみ野の刀剣」「昔のくらしと昔の学校」、ミニ展示・季節展示6回を開催した。特別展記念講演会「人物埴輪群像が表す世界」、学習講座は市民大学と協賛で「ふじみ野の歴史再入門」、一般向け学習講座「古文書講座」を開催した。特別展関連事業「ミニ埴輪人形をつくろう」、小学校3年生対象「昔のくらしと昔の学校」は5校で出前体験学習を実施した。旧大井村役場活用事業として地域の方々への開放としてピンチン体操を行った。新型コロナウイルス感染症対策のため資料館臨時休館を契機に企画展の様子を学芸員実習生と共に動画を作成・配信した。資料館文化財ボランティアの連絡会議を開催し、ボランティア活動の支援を行った。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.10	1.30	1.30
		人件費	8,776	10,475	10,475
	再任用職員	従事人数(人)	0.10	0.00	0.00
		人件費	385	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		9,161	10,475	10,475	
事業費	報酬※	0	0	0	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	657	581	669	
	委託料	470	477	500	
	使用料及び賃借料	0	0	114	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	231	110	322		
支出合計		10,518	11,642	12,080	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	34	128	34
一般財源		10,484	11,514	12,046	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		92	99	105	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	展示会の回数		
	説明	継続的な実施回数が評価の有効な指標と考えるため		
活動	単位	回		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	10	10	10
	実績値	9	12	
指標 2	指標名	展示会への来場者数		
	説明	市民の郷土への理解と歴史・文化、歴史資料に対する意識の高揚を図る指標となるため。		
成果	単位	人		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	4,000	4,000	4,000
	実績値	3,711	5,640	
指標 3	指標名	学習講座の参加人数		
	説明	市民の郷土への理解と歴史・文化や文化財への関心を深めていただくために特別展記念講演会を中心に各種学習講座を開催している。参加人数は教育普及事業の効果を示す有効な指標になると考える。		
成果	単位	人		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	850	850	850
	実績値	858	677	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>1展示事業</p> <p>(1) 特別展「ふじみ野の古墳と埴輪～ハケ遺跡古墳群と埴輪～」会期10/3(土)～12/6(日) 会場:郷土学習室・常設展示室、上福岡歴史民俗資料館</p> <p>①記念講演会 「人物埴輪群像が表す世界～ハケ遺跡第16地点1号墳の女性像の所作をめぐって～」11/21、15人。②特別展関連事業 歴史散歩「市内の古墳群をめぐる」9/27(日) 15人、特別展関連事業「ミニ埴輪人形をつくろう」11/10(土)～12/10(木) 54人</p> <p>(2) 企画展</p> <p>①巡回企画展「最新出土品展」7/18(土)～8/23(日)、「戦時の人々の生活、思い、祈り」8/29(土)～9/13(日)、「伝染病を予言する妖怪たち～人と病気の歴史～」6/6(土)～7/12(日)、「ふじみ野の刀剣～武具と人々の歩み～」12/12(土)～20(日)</p> <p>(3) 季節展示・ミニ展示</p> <p>①季節展示 3回(天王様、正月飾り、ひな人形)。②ミニ展示 3回(ミニ埴輪人形をつくろう作品展、令和2年度学芸員実習生成成展示、東京大空襲)</p> <p>2教育普及事業</p> <p>(1) 博物館学芸員実習を実施、5人。市内中学生職場体験の希望は無かった。</p> <p>(2) 子ども対象体験学習(小学校3年生社会科体験学習1/22(金)～3/3(水)、ミニ埴輪人形をつくろうを開催、郷土の伝承遊び、縄文土器作り教室、藍染教室は中止した。</p> <p>(3) 大人向け講座として11/21(土) 記念講演会、9/27(日) 歴史散歩、2/6・13・27・3/6(土) 古文書講座を実施。</p> <p>(4) 資料館文化財ボランティアの運営等を実施。</p> <p>3旧大井村役場展示・活用事業</p> <p>(1) 展示・活用事業</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策のため、展示、コンサートなどの事業は中止した。毎週水曜日午前に行うピンシヤン体操は地域住民の健康促進のため、入館者人数を定員の半分以下として実施した。</p>
--------------	--

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	市民にとって最も身近に接することが多い常設展示に加えて、資料館と市民が一体となって実施する特別展、市民が講師になる体験学習や講座は、地域の歴史や文化を伝えるために必要不可欠な事業である。今後も「郷土ふじみ野」を市民に再認識・再発見してもらうための重要な機会として継続していく。
中長期的方向性	
継続	

令和2年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		福岡河岸記念館管理運営事業		前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～			
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー			
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 05資料館費			
所管部課		教育部 福岡河岸記念館		評価責任者	高崎 直成
事務事業期間		平成17年度～		評価日	令和3年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等					
事務事業の内容	事務事業の目的	明治期に建築され、当時の商家形態がうかがわれる建築範例として貴重な建物であるため、市有形文化財として指定を受けた建物を市民に公開し、歴史や文化を知ってもらう。			
	事務事業の経緯	昭和62年、旧福田屋敷地及び指定文化財である建物の所有者から寄贈を受け、復元整備を行い平成8年に福岡河岸記念館として開館した。			
	事務事業の概要	歴史的建造物である回漕問屋「旧福田屋」を復元し、郷土の歴史と地域の文化について学ぶ場として公開、平成30年度からは「離れ」の2、3階を月1～2回程度の割合で特別公開している。文化財建造物の保護と良好な利用環境を保全するために施設修繕を行っている。			
	令和2年度の主な取組	例年展開している特別講座などの事業は3密を回避するため、1回のみで開催となった。講座等の開催を見合わせる代わりに、「旧福田屋の至宝-川越城本丸御殿杉戸絵、尾形月耕真筆襖絵-」などの展示会を開催し、市内外からの来館者の増加を図った。 地域と一体となった取り組みを充実するため例年実施している「福岡河岸まつり」開催に合わせた記念館の無料開放は、河岸まつりの中止に伴い、通常の特別公開（有料）のみを実施した。このほか、記念館全体の解説ができるよう市民大学と連携し、解説ボランティア養成のための講座を開いた。建築後100年以上経過した建造物を保護するために、離れ・主屋等の修繕を行った。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和元年度 実績	令和2年度 実績	令和3年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.90	1.35	1.70
		人件費	7,181	10,877	13,697
	再任用職員	従事人数(人)	0.60	0.00	0.00
		人件費	2,307	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		9,488	10,877	13,697	
事業費	報酬※	0	0	0	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	5,049	1,454	423	
	委託料	4,100	3,723	4,524	
	使用料及び賃借料	756	770	770	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費※	313	338	385	
支出合計		19,706	17,162	19,799	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	157	168	186
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	3,890	0	0
一般財源		15,659	16,994	19,613	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		137	146	171	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	入館者数		
	説明	「離れ」の特別公開日を土日・祝日及び地域のまつりの日等に公開すると共に、市報やホームページ、市内の学校などに宣伝を行い記念館での事業の展開（伝承遊び等）を図る。		
活動	単位	人		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	3,500	3,500	3,500
	実績値	2,654	1,981	
指標 2	指標名	特別公開・特別講座・イベント等の開催による入館者の増(目標値未入力)		
	説明	入館者の少ない時期に講座、特別公開等を実施することにより、新たな入館者の増加を目指す。また、定期的な特別公開においてボランティアによる解説を取り入れること等により更なる増加を図る。		
成果	単位	人		
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	400	700	750
	実績値	677	281	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年4月1日～5月31日、12月26日～令和3年1月17日までを臨時休館とし、4月・5月・3月に予定していた特別公開の中止及び特別公開日におけるボランティアによるツアーガイドを中止した。また、毎年地域の方々が記念館について理解を深める機会となっている「福岡河岸まつり」も今年度は開催中止となった。</p> <p>例年展開している特別講座などの事業は1密を回避するため、「落語」1回のみで開催となった。講座等の開催を見合わせる代わりに、「旧福田屋の至宝-川越城本丸御殿杉戸絵、尾形月耕真筆襖絵-」及び「河岸記念館のお正月」などの展示会を開催し、市内外からの来館者の増加を図った。また、展示会に出品した杉戸絵のポストカードを製作・販売し、地域に残る文化財への理解や愛着を深める機会とした。このほか、解説ボランティアの人材養成のため、令和元年度に引き続き市民大学と連携し解説ボランティア養成講座を開講し、新たに2名が登録された。</p> <p>1 展示事業 (1)「旧福田屋の至宝-川越城本丸御殿杉戸絵、尾形月耕真筆襖絵-」11/3(火)～12/20(日)562人 (2)季節展示「河岸記念館のお正月」12/22(火)～2/21(日) 248人 (3)福岡河岸記念館フォトコンテスト作品展 1/19(火)～3/7(日) 348人</p> <p>2 講座・体験事業 (1)古民家で聞く落語 11/3(火) 15人 (2)はたおり「裂織りで作る小敷物」8/22(土)4人、9/12(土)11人、3/27(土)予定 (3)学習講座：市民大学「ふじみ野の歴史再発見」第1回 12/17(木) 9人</p> <p>3 地域協働 (1)「福岡河岸まつり」への協力 河岸まつり中止に伴い、特別公開（有料）のみ実施した。</p> <p>4 施設修繕 経年劣化による建物の傷みに対処するために、離れ3階化粧板、正面門扉、トイレ洗面所などの他に、主屋雨漏り修繕を実施した。また、職員により竹垣・雨戸等の修繕が実施された。</p>

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	江戸時代から明治時代中ごろにかけて新河岸川舟運で栄えた福岡河岸には、往時の様子を伝える貴重な文化遺産が残されている。本館は、市指定文化財回漕問屋福田屋の建物を保存・公開して、舟運と問屋の暮らしを展示している。明治初期の船問屋を再現しており郷土の歴史と文化を理解し地域への愛着を深めるものである。建築後150年経過しており、今後も永く後世に伝えるために、絶えず損傷個所の有無を点検し、文化財保護と快適な利用環境を両立させて整える必要がある。さらに、より多くの方々に利用していただくために、バリアフリー化に向けて検討する必要がある。
中長期的方向性	
継続	